

小須戸公民館報

町館信日
戸常日
須公月15
小中成毎
発行所 小須戸公民館
発行人 中成毎
発行日 毎月15日
印刷所 信昭堂印刷所

第1回 小須戸町 芸能祭

10団体が熱唱・熱演



去る十二月八日(日)、中央公民館の三階ホールにおきまして、小須戸町初の芸能祭が開催されました。当日は三百名に近い大勢の方々からご来場いただき、盛会に開会でき、かつ、出演十団体も思う存分日頃研修した技能を披露できた一日となりました。

実行委員長御礼のことば

五十田 巾夫



十二月八日に開催いたしました、第一回町民芸能祭では、中央公民館・参加諸団体ならびに町民各位から格別なる御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございました。皆様のおかげをもちまして、多数の方から御来場いただき、大変盛大な芸能祭にすることができました。熱く御礼を申し上げます。

スポーツ大会結果

第二十五回 町民庭球大会

結果

去る十月二十日(日)に行なわれまして町民庭球大会は次のような結果でした。

- 一般男子の部
 - 一位 佐藤・伊藤組 二位 久保田・東條組
 - 三位 関根・野崎組 三位 藤田・高橋組
- 中学男子の部
 - 一位 小林・川瀬組 二位 関根・保科組
 - 三位 河内・星田組 三位 初心者クラス

第七回 町民バドミントン大会結果

大会結果

去る十月二十日(日)に行なわれまして町民バドミントン大会は次のような結果でした。

- 位野崎・吉田組
- 女子の部
 - 一位 内山・深沢組 二位 横山・須藤組
 - 三位 大場・佐藤組 三位 相田・穴沢組
- 一位 須藤信子 二位 藤井幸子
- 三位 風間豊美 三位 白井美和
- ダブルス
 - 一位 風間・高野組 二位 五十風・柳瀬組
 - 三位 入倉・苅部組 Bクラス
 - 一位 丸山・須藤組 二位 中野・小林組
 - 三位 青木・西山組 初心者クラス
- 一位 横山俊樹 二位 長沢富士夫
- 三位 清水忠夫 三位 藤井政人
- 男子初心者(十四名)
- 一位 吉田林哉 二位 横山隆一
- 三位 川瀬浩明 三位 田中弘
- 女子一般個人(十四名)
- 一位 神林真子 二位 新井田久江
- 三位 新井田文子 三位 上田桂子
- 女子初心者(十二名)
- 一位 砂井かおり 二位 木伏三枝
- 三位 伊藤絵厘子 三位 古沢友美

第三十六回 町民卓球大会結果

結果

去る十一月十七日(日)町民体育館において開催されました卓球大会は次のような結果とな

第三回町民俳句大会

五賞入選句

応募総数三二五句

町長賞



小学生の部 秋空にふきのこされて雲ひとつ
中学生の部 川添いの布で妻帽子買う
高校生の部 日焼顔描い教室生き返る
一般の部 刈田焼く炎遠くはありにけり

町議会議員賞

小学生の部 風の音がそるそるきてるよ
中学生の部 休み明け日焼けの顔の輝けり
高校生の部 文庫本眺みつく窓辺に虫すだく
一般の部 間引来し小菜一つかみ秋祭り

教育委員会賞

小学生の部 いちようの葉くるくる回りおてくる
中学生の部 夕暮れに刈田をたく強い雨
高校生の部 教室の風あらたまる衣替え
一般の部 借景の五頭の峰より今朝の秋

中央公民館賞

小学生の部 日ぐれ時少しずしくなつて来た
中学生の部 山は緑神通川が遠き通り
高校生の部 田が一枚刈り残されて色深む
一般の部 上を向いてと歌いし人逆き星月夜

やったぞ！親子鷹

俳句同好会賞

小学生の部 秋の田に色とりどりのコンバイン
中学生の部 梅雨の日の教室の中薄暗し
高校生の部 二期のチャイム校内に響きたり
一般の部 手拍子を打ちつつ入る盆踊り



役場よりお知らせ

十二月は年末調整の月です

サラリーマンの所得税は、毎月の給与やボーナスの支給のときに源泉徴収で天引きされています。そして、十二月に年末調整で一年間の所得が精算されます。なぜ年末調整が必要かとい

- 一、年の途中で赤ちゃんが生まれたりして扶養親族の数が変わることがある。
- 二、生命保険料や損害保険料の控除は年末に一度に引くことになっている等が挙げられます。

このため、その年の最後に支給される給与やボーナスのときにそれまでに源泉された税額の過不足について精算されます。この手続を「年末調整」と呼んでいます。

公民館の当番のおじさんが交替しました。ご紹介しますが、公民館図書室のおねえさんが交替しました。ご紹介します。

山田 政一 (大川前二)
我妻 恵美子 (若葉町三)

第二回文化講演会

現代作法をさぐる

去る十一月十七日(日)近藤珠実先生をお迎えし、現代作法の原点を探りました。また日頃疑問に思っていることが解け、子供達への「しつけ」に大変役にたったのではないかと思います。「昔のしきたりの作法から脱皮し、現在の社会(家族・地域・建物等の変化)にマッチした作法とは?」作法の心をまとめてみました。



作法というものは何んとかく堅苦しくて窮屈なものだという観念が強かった。それは古い作法で(古いというのは封建時代で第二次世界大戦前まで)目上の人に対して、こうしなければならぬ、あしななければならぬ、こうであったという押しつけで、親が子にいつけた。でない子供が不幸になったからです。

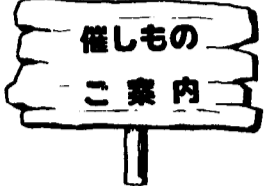
今は民主主義で身分の制度も何もなく人々はすべて平等です。では作法はなぜ必要なのかと考えた時、それは、周りの人と、気持ち良く、うまく生活していくために大切なことです。だから目上の人ばかりではなく、自分の身の周りの人に対しても作法が必要になります。

そして礼儀作法を二つに分けてお話をしてくれました。一つは「冠婚葬祭」での作法で、結婚式、葬式、お祭り等みんなが寄り集まって儀式や行事があった時の「しきたり」を覚えておくこと。もう一つは日常生活での作法で、ごあいさつや、

年上の方に席を譲る、やさしい言葉かけ、食事の時は周りの人がまずくならないように気をつける等、日常生活の中でお互いがうまくやっていくことです。今の子供達はまわりの人に対してどうする、先輩にはどうするか、お客にはどうするものだと全然お母さんから習っていないために周りとうまくいかなくなり、そして自分が悪いと思わないで周りの人が「いじわる」と思い人間関係がうまくいかないことが多いのです。

礼儀作法と言う以前に、人のお付き合いで何が一番大切なのかを知っていただきたいと思えます。人との付き合いの中に礼儀作法があり、人と人との間に潤滑油としてある。守らないととらわれてゆきます。そこでお母さんはどうあつたら家庭が幸福になってみんなが幸せになるのか考える必要があります。人は誰れもが好かれ仲良く、明るく暮らしてゆきたいと思っています。人生を楽しく過ごすと思つたら自分の周りにいる人の存在を認めてあげることです。それはすごく簡単なことで、自分がそこに居る事を周りの人が認めてくれた時に居こころがいと思ひ、生活していると思ひ、このような小さな事から生かすことが、人とのつながりが生まれ

てくるのです。今の子供達は人がやってくれたことに對して反応を示すことが少なくなつてきています。それは「ありがとう」と認めてくれることです。「言わなくてもわかる」これが日本人の美德ですが、今はそんな時代ではないのです。交際範囲が広い、日常生活が忙しい、そんな中にあるべきではないと思つたら、言葉に出すことです。つまり何をすれば良いかと言つと、まず相手を大切にすれば良いと思ひます。その人の立場を理解してその人が自分にしてくれた事に対して反応を示せば良いのです。誰れかの為になつて生きている事が人間です。自分だけ食べて、自分だけ寝て、自分だけ生きていけば、犬や猫と同じです。自分が役に立つ事が生かすことで、礼儀作法をやりたいと思つたら周りの人を好きになり、周りの人に声をかけることだと思ひます。



第十四回 町民元旦マラソン大会開催

今年で十四回を数えます町民元旦マラソン大会は次により行

催しもの案内
 催しもの案内
 催しもの案内

16%愛好会発足
 16%愛好会発足
 16%愛好会発足

親子映画会
 親子映画会
 親子映画会

図書寄贈御礼
 図書寄贈御礼
 図書寄贈御礼

分館だより

新保分館
 料理講習会終る
 十二月一日、夜七時より新保地域研修センターに於て、酒井十吉先生を講師にお迎えし、「天ぷらの揚げ方と、だし汁の取り方」について四十名の参加者の中終了いたしました。

横水分館
 水田老人クラブ・学習会
 お話しを聞く会
 十二月十七日(火)
 午後一時三十分より
 水田集落センター
 伊藤 敏先生(矢代田小学校校長)
 「江戸川柳を味わう」
 十二月学習理科教室
 十二月十七日(火)
 午後七時より
 中央公民館 調理室
 講師 酒井 十吉先生
 「さけ」料理のこつ
 今年最後の学習会ですので、奮つてご参加ください。

横水分館球技大会成績
 11/24 於町民体育館
 バレーボール団体戦
 一位小向チーム 二位横川チーム 三位水田チーム 四位文京町チーム
 卓球団体戦
 一位横川チーム 二位文京町チーム 三位小向チーム 四位水田チーム
 卓球個人戦(男子)
 一位吉田芳夫 二位森田義昭 三位黒坂晋司 三位野崎茂樹(女子)
 一位木村チヨエ 二位長沢玲子 三位米田マツイ

短歌
 深々と雪積む境内隣村の除夜の鐘
 短く雪空に消ゆ
 菅沼の村のかやぶきしずかなり
 模型のごとく野にきたまれば
 吹き荒れて風収まりし置に
 タべしづかに雨の降りるをり
 我妻清作
 伊藤照淡
 加藤 茂

十一月例会作品
 小須戸町俳句同好会
 朝立ちのホテルに寄りくるなめこ壳
 梨送りすませし胸に青い空
 琴の音のひとときわ澄めり十三夜
 冬告げる雷軒げ軒げ過ぐ
 少年の手に温みいし木の实かな
 落ちいたる木の实仔猫がまるばせり
 赤まんま犬小屋白く塗り終る
 抽熟るる「寺大門」という屋号
 端唄や尻をいきなり朝寒し
 ボケットに木の实遊ばせ山降る
 秋耕を遠く釣りをさぐりゆく
 秋耕の遠嶺に雪がきてをりぬ
 昼すぎにようやく日あたる菊を摘む
 振り起す芋の髭切る小春かな
 木の实独楽忘れたありぬ齒科医院
 板がらをたつぷり混せて秋耕す
 松山 久子
 太浪 久津明
 野 露春
 紀 良男
 香月 富沙子
 富沙子 越 素系
 越 素系 美根子
 美根子 秀 虚
 虚 秋

中学生文芸
 一俳句クラブ作品一
 閑鍋の人参の柿浮かびおひり
 皿持って閑鍋の中のおき込む
 閑の鍋沈めど浮かぶ自作作品
 閑汁会みんなて当てつこ具の中味
 閑汁会自分で作った具を探す
 閑鍋をのぞいてこれは誰の作
 閑の汁これは何かと食べてみる
 閑の鍋かきの目玉がわれをにらむ
 秋の夜のみんで来しむ閑汁会
 閑汁会大きい鍋に具を入れる
 閑汁の中をのぞけば工夫あり
 閑鍋のゴトゴト音にふり返る
 閑汁会ふたを開けるといい匂い
 閑の中ふたを開ければすこい湯気
 鍋の中煮える閑の長時間
 川瀬直美
 高山ルミ子
 内山 香
 荒木加代子
 安達聡子
 白井美和
 高山明美
 吉田美佐子
 高山由香
 吉沢 恵
 風間厚子
 井上ひろみ
 古川久美子
 古沢友美
 上田あゆみ

川柳教室作品
 題「暮れの街」
 ホーナナスに羽のあるよな暮れの街
 赤提燈横眼に急ぐ暮れの街
 売り出しの音がせかせる暮れの街
 鮭の値に胸算用の暮れの街
 虎の子を叩いて買物暮れの街
 子等は待つホーナナス懐暮れの街
 街灯を待ってデパートの待ち合せ
 暮の街肩寄せ合って屋台店
 師走風行き交う人の早い足
 つるされた鮭が閑口で客を招ぶ
 暮れの街ただなんともなく小走りて
 年の瀬に心せわしい暮れの町
 ご苦労さん農具に感謝年の暮れ
 暮れの街パトロール隊も忙しく
 暮れの街ホーナナスに手をあて急ぎ足
 きよの 清平
 幸な 信子
 みな 玲子
 信子 玲子
 ただし 八ナ
 ハナ 春江
 キン 常信
 源 常信
 米 常信
 武 常信
 雄 常信